



熊小だより

学校教育目標

進んで考え 学び合う子（知）
明るく素直で 思いやる子（徳）
元気にきたえる たくましい子（体）

電話 01398-2-3387 FAX 01398-2-3509

八雲町立熊石小学校HP <https://www.town.yakumo.lg.jp/site/kumaishi-es/>

部屋番号

校長 山形圭亮

担任の先生が修学旅行の部屋割りについて説明しています。

A先生：「202号室の人を言います。及川さん、阿部さん、水野さん、岡島さんの4人です。」

B先生：「及川さん、阿部さん、水野さん、岡島さんの部屋番号を言います。202号室です。」

さて、A先生もB先生も同じ内容の説明をしているのですが、子どもたちにより伝わりやすいのはどちらの説明だと思いますか。

子どもの立場に立つと、これはB先生の方がベターです。

自分の名前が呼ばれたときにアンテナが反応し、関心をもって聞き始めます。

A先生の場合、阿部さんは自分の名前が呼ばれたときには、部屋番号はすでに言われた後で、聞き返す可能性が高いと考えられます。

B先生の場合、阿部さんのアンテナのスイッチが入ってから部屋番号が言われるので、一回で把握できる可能性が高いと考えられます。

実はこれ、旅行会社の添乗員さんがホテルの部屋をお客さんに伝えるときに使うテクニックなのだそう。学校現場でも応用できる部分が大いにあります。

先日読んだ本に、「経験豊かな保育士さんはオノマトペをうまく使って園児とコミュニケーションをとる」とありました。うがいやうながすのに、「うがいしなさい」ではなく「ガラガラペツをしようね」と語りかけます。

教育は愛である、情熱が大事である…と語られることがありますが、教育は技術によって支えられる部分も確実にあります。授業は上手な方がいいですし、子どもに話をするときは平易な言葉でテンポよく語る方がわかりやすいのです。子ども同士の関係や人間関係の満足度は、教育心理学の知見にもとづいた検査を行うことでデータをもとに客観的に把握・分析することができます。また、一人一台端末の導入に象徴されるよう指導方法や内容も変わるため、つねに教師自身がアップデートすることが求められます。

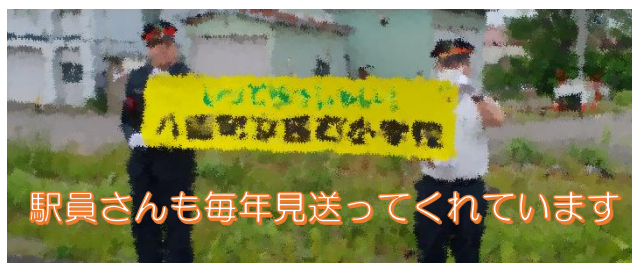
今年度も先生方が授業や指導の力量を高められるよう研修を進めていきます。時には学校を離れて研修をすることもあります。上のような理由です。ご理解ください。



修学旅行に行ってきました



6月11日～12日の1泊2日、札幌方面に修学旅行に行ってきました。自主研修で市内を散策したり、青少年科学館に行って学習したりするなど、充実した旅になったようです。天候が心配されましたが、何とか雨に当たらず済みました。日頃の行いのおかげでしょうね。保護者の皆様におかれましても、準備や送迎へのご協力、ありがとうございました。



駅員さんも毎年見送ってくれています

グリーンエコリサイクルへのご協力、お願いします！！

グリーンエコリサイクルの収益は、PTA 会費を集めていない本校にとっての、貴重な収入源です。今年度の用途としては、子どもたちの学習ドリルや運動会の保険（保護者用）など、幅広く活用されています。マチコミでも再度お知らせしますが、**7/5(土)が回収日**ですので、ぜひご協力をお願いします！！

7月の主な行事



日	曜日	行 事	スクールバス		
			1 便	2 便	3 便
1	火	水泳学習①	13:40		
2	水	AL 来校 フッ化物洗口	13:40	14:45	
3	木	水泳学習②	13:40		
4	金	眼科検診(全学年6時間)	14:45		
5	土	P T A グリーンエコリサイクル			
7	月	個人懇談①	12:35	13:40	
8	火	個人懇談② うまいべあデー	13:40		
9	水	個人懇談③ ALT 来校 フッ化物洗口	13:40		
10	木	個人懇談④	12:35	13:40	
11	金	変則 5 時間日課	13:55		
14	月	クラブ活動	12:35	13:40	14:45
15	火		13:40	14:45	
16	水	ALT 来校 フッ化物洗口 租税教室	13:40	14:45	
17	木	移動図書 租税教室	12:35	13:40	
18	金		12:35	13:40	
21	月	海の日			
22	火	全校集会	11:00		
23	水	夏季休業(～8/22) 学習サポート①			

8月の主な予定

22日(金) 全校集会 28日(木) 芸術鑑賞会

『いじめ〇』≠『いじめ見逃し〇』

5月末にアンケートを実施しました。アンケートの中で、「誰かに嫌なことを言われたりされたりしたことがある」と回答した児童は4名おりました。幸いにも、各担任の素早く丁寧な対応により解決に向かっていますが、学校は、相手に悪意が「ある」「なし」に関係なく、本人が何か言われたり、されたりしたことで嫌な思いをしていることについては、いじめに繋がる事案と捉えて対応しています。日頃より、担任が児童と話し合う機会を設けたり、授業だけでなく休み時間も全教職員で見守ったり、気になることがあったときは素早く対応したりしています。

子どもたちが集団生活をしていく上で、「嫌な思い」をすることは、大人同様必ずあることです。ですので、「いじめ〇」はなかなか難しいことだと思います。その対処を学び、力強く未来へ向かう姿勢を育てるためにも、いじめの早期発見、早期対応が必要不可欠です。そのため学校では「いじめ見逃し〇」を目指してこれからも様々な取組を行ってまいります。今後とも、「いじめをしない、させない、許さない」学校づくりを推進していきます。ご家庭でも、何か気になることがありましたら、どんな些細な事でも結構ですので、学校にお知らせください。